

## 平成30年度 部局長マネジメント方針

健康部長 しまおか まさゆき  
島岡 正之



### 仕事に対する基本姿勢

健康部では、妊娠・出産・育児の支援をはじめ、市民の健康増進、食の安全、感染症予防、斎場施設の管理、さらに近年では大規模災害発生時の健康危機管理対策など多岐にわたる事業を展開しています。健康部は多様な専門職集団であり、その特性を生かして課題の解決に取り組み、「健康で元気に暮らせるまち」「安心して医療を受けられるまち」「安心して子どもを生子、育てられるまち」「生活衛生が行き届いたまち」を目指してまいります。

### 平成29年度の振り返り

- ・「健康トライ21（第2次）」の中間評価で、80項目中の50項目で改善がみられました。
- ・がん検診の受診率向上のため胃がん検診に胃内視鏡検査を追加しました。
- ・2年目となった健康マイレージには、963人の方にご参加いただきました。
- ・母子保健施策の情報発信等サービス（子育て応援アプリ）の充実を図りました。
- ・東大阪市総合防災訓練で、市内医師会、歯科医師会、薬剤師会、消防局や東大阪医療センターのDMAT隊と連携した訓練を行いました。また、保健所職員向けに健康危機管理対策訓練を実施しました。
- ・斎場整備に関する庁内検討委員会を設置し、斎場整備方針の策定に着手しました。また、長瀬斎場の整備手法や、既存斎場の在り方・改修整備に関して、民間事業者からの意見を聴取するサウンディング調査を実施しました。
- ・東大阪医療センターの平成28年度の実績について、中期目標の達成に向けての進捗状況を調査分析し、評価委員会にて評価を行いました。
- ・食品衛生監視指導計画に基づき、食品関係事業者への監視指導及び食品の表示確認や製品検査を実施し、不適切な食品の流通防止に努めました。
- ・野生鳥獣被害対策の庁内連携を図るため、鳥獣被害対策庁内連絡会議を設置しました。
- ・ラグビーワールドカップ2019の会場である花園中央公園等において、感染症を媒介する蚊の生息調査および発生を防ぐための対策を行いました。
- ・感染症、食中毒へ速やかに対応できる態勢を充実させるため、検査機器を拡充しました。

## 1 健康づくりの推進

健康寿命を延ばすことを目標として、「健康トライ21（第2次）」に基づき市民の健康づくりを進めていきます。平成30年1月に胃がん検診に内視鏡検査を追加導入しました。受診機会を増やすことによりがん検診受診者が増加するよう、効果的な啓発を行っていきます。

「歯っぴいトライ21」の中間評価の年度であることから、事業の進捗や目標の達成状況を確認し、市民の歯・口腔の健康づくりを推進していきます。

また、本市の自殺者数を少しでも減らすべく、自殺対策計画を策定していきます。

## 2 健康で安心して妊娠・出産・育児ができるサービスを充実

少子化対策として母子保健事業の充実は必須です。特に妊娠・出産・育児を切れ目なく包括的に支援していく施策が求められています。従来からの妊産婦健診、妊婦歯科健診の助成や産後ケア事業、乳幼児健診、家庭訪問による個別の育児相談に加え、子育て応援アプリを活用して妊娠・出産・育児に関するお役立ち情報を発信します。また、妊娠初期から産後初期の母子に対する支援を強化し、母子ともに健やかに暮らせる施策を進めていきます。

## 3 健康危機管理対策の充実

感染症のほか、集中豪雨や大地震などの自然災害による健康危機事象の発生に備え、関係機関と連携した訓練や保健所職員向け訓練を実施するとともに、市内医療機関と健康危機事象発生時における連絡・連携体制の構築を行い、更なる対応力の強化や技術の向上を図っていきます。また、発災直後に医療救護所で必要となる医療資機材についての確保に努めます。

ラグビーワールドカップ2019会場となる花園中央公園等において、感染症等を媒介する蚊の生息調査を継続して実施するとともに、適切な予防対策を講じ、感染症防止に努めていきます。

## 4 動物との共生

従来から行ってきた動物の適正飼育の啓発に加え、平成30年度から野生鳥獣の一元的な窓口となることから、野生鳥獣による生活環境被害の軽減を図っていきます。

## 5 市立東大阪医療センターの業務実績に対する評価の適正な実施

市長が指示している中期目標の達成に向けて、医療センターの計画が着実に遂行されているかについて、専門的な見地から評価委員会の意見を聴き、適正な評価の実施に努めます。

## 6 斎場整備の推進

老朽化した火葬場の施設整備を推進すべく、平成30年度には緊急性の高い長瀬斎場の施設整備に着手できるよう、他の斎場を含めた斎場整備方針を策定し、安定した火葬業務が継続できるよう努めていきます。